

《資料 2026年度町田市登録文化財候補》案

石阪昌孝屋敷跡

指定種別：町田市登録旧跡

所在地：町田ぼたん園内（町田市野津田町 2293 番地－1号～3号）

所有者：町田市

管理者：町田市都市づくり部公園緑地課・NEST Machida 共同事業体（指定管理者）

内容：地所

法 量：1反5畝25歩（約1,570 m²）＝地券での記載面積

2293 番地1号 900（もしくは892）m²

2293 番地2号 810（もしくは826）m²

2293 番地3号 100（もしくは99）m² 合計1,810（もしくは1,817）m²

経 緯： 町田市を代表する民権家、政治家である石阪昌孝は、1841(天保 12)年に多摩郡野津田村(現町田市野津田町)に生まれ、生後すぐに同村の石阪昌吉の養子となって本屋敷地へ移り住んだ。1878(明治 11)年の記録では芝生の西洋風庭園になっており、横浜から文明開化の影響を受けたと考えられる。中央政界で活動するため1880(明治 13)年以降、東京区部にも住宅を構えたが、衆議院議員として自身の選挙区である旧神奈川県に所在した同地は引き続き保持され、東京区部と地元を行き来し活動する生活を送った。同地には1889(明治 22)年、石阪が衆議院選挙への出馬資金として抵当に入れられ借金をしたという政治活動の一端を知る経緯もある。1907(明治 40)年、石阪の死去により子の石阪公歴と渡瀬登志が相続し、その後、子孫により町田市に寄贈され、現在は町田市ぼたん園内に含まれている。

現 況： 屋敷地として整地された平地で、現在は芝生が養生され一部にツツジ・フジ等が、東側隣接地との境にはフェンスが設けられ内側にツバキ等が植樹されている。石阪昌孝没後の1918(大正 7)年2月に3筆に分筆され、中央の2293番地3号が石阪昌孝の墓への参道として利用されたと思われるが、その痕跡は残っていない。

登録理由： 石阪昌孝は、幕末から明治初期にかけて地域行政の要職を務め、1879(明治 12)年に神奈川県会初代議長に就任した。1881(明治 14)年に政治結社融貫社を組織し、翌年に自由党に入党すると旧神奈川県の自由民権運動を代表する指導者として活躍し、1890(明治 23)年の第一回衆議院議員選挙で当選以降、4回連続で当選し、計6年間衆議院議員を務めた。1896(明治 29)年から翌年まで群馬県知事を務めた後に政界を引退、1907(明治 40)年に亡くなる。没後、現在の八王子市や海老名市に石阪を顕彰する碑が建てられるなどの経緯からも、旧神奈川県を代表する民権家、政治家といえる。

本屋敷地は、石阪が生誕直後から居住し、東京区部にも住居を構えるように

なった1880(明治13)年以降も政治活動の拠点として引き続き大きな役割を果たした。また、同地は、文学評論家、詩人として著名な北村透谷が後に妻となる石阪の長女美那と出会った場所である。石阪の長女美那は、自由民権運動から大きな影響を受けた北村と、激しい恋愛の末、両親の反対を押し切って結婚し、このことを記した評論「厭世誌家と女性」は近代的な恋愛観の表明として当時の青年層へ大きな影響を与えた。現在、屋敷地跡付近に「自由民権の碑 透谷・美那子出会いの地」が建てられている。

同地は、日本の近代立憲政治の基礎をつくる上で大きな貢献をした民権家、政治家である石阪昌孝が生誕直後から居住し、死去するまで政治活動の拠点とした場所であり、石阪の歴史的な役割を知る上で象徴的な空間といえる。

また、石阪の長女美那と北村透谷がこの地で出会い、その後恋愛結婚へと至ったことから新しい恋愛観を世に問う契機となった場所でもある。以上のことから由緒ある場所・土地で市の歴史を理解するために必要なものとして町田市登録旧跡にふさわしいと思われる。